

第1回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会 議事録

件名	第1回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会		
日時	令和6年8月26日(月) 14:00~16:00	場所	三次市役所本館6階 602・603会議室
出席者(策定委員)17名	出席者(事務局・基本方針策定支援業務受託者)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・林会長</li> <li>・小川副会長</li> <li>・浦田委員</li> <li>・安田委員</li> <li>・藤川委員</li> <li>・岩崎委員</li> <li>・次川委員</li> <li>・住岡田委員</li> <li>・高田委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増田委員</li> <li>・水越委員</li> <li>・岡崎委員</li> <li>・今井委員</li> <li>・池上委員</li> <li>・三上委員</li> <li>・森川委員</li> <li>・福田委員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迫田教育長</li> <li>・豊田教育次長</li> <li>・渡部課長</li> <li>・藤本課長</li> <li>・今井係長</li> <li>・新谷係長</li> <li>・曲田専門員</li> <li>・平主事</li> <li>・(株)エブリプラン2名(基本方針策定支援業務受託者)</li> </ul>	
欠席者(策定委員)	欠席者(事務局・基本方針策定支援業務受託者)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中委員</li> <li>・佐々木委員</li> <li>・長尾委員</li> </ul>			
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) みよし学びの共創プラン(三次市教育大綱・三次市教育振興基本計画)について</li> <li>(2) 三次市立小・中学校の規模及び配置の適正化について〈基本方針〉の取組状況・検証について</li> <li>(3) 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定指針について</li> </ul>		

事務局 みなさま、本日は公私ともお忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。  
開会に先立ち、一言お願いをさせていただく。  
本委員会は、公開とさせていただき、ご意見を記録するため、音声の録音をさせていただくこと、また、本委員会のご意見をホームページ等で公開することをご了解いただきますようお願い申し上げます。

それでは定刻となりましたので、ただ今から「第1回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を開会させていただく。  
私は、本日の司会進行を務めます、三次市教育委員会教育企画課の曲田である。  
本日の会議は、2時間の予定で進める。

事務局 傍聴の希望があるので、入室を許可する。  
～傍聴者入室～

事務局 続いて、本委員会の開会にあたり、三次市教育委員会迫田教育長から、ご挨拶申し上げます。

教育長

本市の教育行政，施策推進にそれぞれの立場でご支援いただき感謝申し上げます。また，策定委員会委員の了承をいただき感謝申し上げます。本委員会設置の趣旨は，世界レベルでの社会状況の変化が急激に進んでおり，先行き不透明な時代の中，本市は中山間地域に位置しており，日本が抱える社会課題の最先端に位置している。このような中でひとつづくりはまちづくりの基盤ということコンセプトに取り組んできた。社会状況の変化の中でひとつづくりも改めての見直しが求められている。学校教育においては，従前からできる限りの投資を行い，地域の支援もいただきながら学校教育の充実を図ってきた。一方では社会情勢の変化に合わせて子どもを取り巻く環境も随分変わってきた。コロナに始まり，急速に進むデジタル化，いじめ，不登校，家庭環境の変化，部活動，特別支援の観点，必要な力をどうつけるかを問い直す必要がある。それらに正面から向き合い，市民の幸せの実現のため，向こう10年間を見通した第3次総合計画を昨年度策定し，ひとつづくりの観点から「みよし学びの共創プラン」も策定した。その中で，本市として魅力的な，特色のある，本市の強みを生かした取組を通して，これからの三次をつくる当事者，また，地域や国，世界を見定めて力を発揮してくれる子どもたち，ひとつづくりを実現したいという思いをもってこの委員会を設置した。本市の学ぼうとする子どもたちが安心して過ごせる学校，夢を持ち学べる学校，今よりさらに魅力的な学校，一人ひとりの可能性を伸ばせる学校を実現するために，それぞれの見地から忌憚のない意見をいただきたい。本市で学んでよかった，学ばせて良かった，ぜひ学ばせたいと思っただけのような環境づくりに皆さんのお知恵を頂きながら取り組んでいくので，是非ご協力をお願いしたい。

事務局

「次第3 策定委員会委員紹介」に移る。「資料1 策定委員会委員名簿」をご覧いただきたい。この度，委員にご就任いただきました皆様には，就任にあたり，ご快諾をいただき厚くお礼申し上げます。委嘱状並びに任命書については，お一人ずつお渡しさせていただくのが本意ではあるが，時間の都合により，既に席に配付させていただいていることをご了承いただきたい。本策定委員会委員については，「資料2 策定委員会設置要綱」第3条に定める分野の方，20名以内で構成することとしている。

委員の皆様には，それぞれに，ご挨拶をいただくべきところではあるが，後ほどの協議事項の中で，ご発言をいただく時間を設けていくので，私から紹介させていただくことをご了解願う。

～各委員の紹介～

事務局

なお，本委員会の所掌事務は，設置要綱第2条「基本方針素案の策定」と定めている。また，委員の任期については，設置要綱第4条に，委嘱又は任命した日，本日，令和6年8月26日から，基本方針策定の日までとさせていただきます。今後の委員会開催スケジュール等については，後ほど説明するが，

基本方針素案の策定については12月を予定し、基本方針の策定については、令和6年度中の予定としている。

続いて、本日出席している教育委員会事務局職員を紹介する。

～事務局の紹介～

続いて、本基本方針策定支援業務受託者を紹介する。

～基本方針策定支援業務受託者の紹介～

- 事務局 続いて、次第「4 策定委員会 会長、副会長の選任」に入る。  
会長及び副会長については、設置要綱第5条の規定により、委員の互選となっているがいかがか。選出方法についてご意見、ご提案がありましたら、お願いする。  
なければ、本日が初めての委員会ということもあるので、事務局から（案）をご提案させていただく。
- 委員一同 委員一同  
事務局 事務局  
事務局 事務局
- 委員一同 委員一同  
事務局 事務局
- 林会長 林会長
- 小川副会長 小川副会長
- 事務局 事務局
- ～異議なし～
- 会長に広島大学名誉教授林委員を、副会長に、NPO 法人地域活性化プロジェクトチーム GANBO 代表小川委員をご提案させていただく。ご承認いただける方は、拍手をお願いする。
- ～承認（拍手）～
- 拍手多数により、会長に林委員が、副会長に小川委員が選任された。林会長、小川副会長は席の移動をお願いする。  
それでは、林会長、小川副会長に、一言ご挨拶をいただく。
- 三次市と深い縁はないが、教育長と話をし、当事者としてこの場にいることができればいいなという思いである。県の生涯学習審議会と社会教育連絡協議会の会長という形で、生涯教育のことを現在深くやっている。また、教職大学院での勤務を最後に、学校教育のあり方を深く研究してきた。学校と社会といった地域社会との教育連携をテーマにしてきた。それぞれが当事者として教育のことを考え、学ぶことと育つことを常に考えていきたい。
- 三次市の甲奴町在住である。NPO 法人 GANBO に2011年から関わっている。委員就任の依頼の中に、「児童生徒一人ひとりにより豊かな教育環境を保障していくことを目的とする三次市立小中学校のあり方に関する基本方針」を策定するとある。時代が変わり、自分が甲奴の中学を出たときはまだクラスが2つあり、先輩後輩もたくさんいた。自分の子どもの頃にはずいぶん減ってきて、半減している。大人は多くの時間を仕事に割いているが、子どもは学校に多くの時間を使い自分の夢を見つけてそれに向けて頑張っている。私たちはそれぞれ役割があり、子どもたちを地域で育てていきたいと思っている。子どもたちのために、みなさんと一生懸命考えていきたいと思っている。
- これより議事に入る。本日の資料の確認をお願いする。不足等があれば、お申し出いただきたい。  
それでは、ここからは、林会長に進行をお願いする。

林会長

それでは、次第に沿って議事を進める。次第 5、議事「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定について」協議を行う。

本件については、昨年度策定された三次市の教育推進の基本となる「みよし学びの共創プラン」、及び、現在の「小中学校の規模及び配置の適正化」が関連するため、「(1)みよし学びの共創プランについて」、及び「(2)三次市立小・中学校の規模及び配置の適正化について〈基本方針〉の取組状況・検証について」を情報共有し、理解しておく必要がある。

まず、その点について事務局から説明いただき、意見等をいただく。それでは、説明をお願いします。

教育長  
事務局

- (1) みよし学びの共創プランについて、資料 3・資料 4 に沿って説明
- (2) 三次市立小・中学校の規模及び配置の適正化について〈基本方針〉の取組状況・検証について、資料 5・資料 6・資料 8 に沿って説明
- (3) 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定指針について、資料 7 に沿って説明

林会長  
池上委員

質問があればお願いします。

令和 4 年に適正化についてということで基本方針が示されたが、この中に統合の時期が定められている。令和 4 年 3 月からは 2 年経ち、令和 7 年度から結果が出るというところでは、甲奴小学校への小童小学校統合があると思うが、これらについては PTA や住民自治組織と話をしていると思う。資料 7 を見ると、三次市立小中学校のあり方に関するという名前に変わった。資料 7 の 2 の策定の考え方を見ると、令和 4 年に策定した基本方針を検証し、幅広い関係者による策定委員会を設置し、新たな基本方針を策定するとなっている。令和 4 年に策定した方針と今回新たに策定する方針のどこがどうリンクしているのか、今あるものをどうしようとしているのかを説明してほしいのが 1 点目。そしてこれを 12 月末までに月 1 回の会合で案を策定しようということであるが、工程がなぜ 12 月末までなのかが 2 点目。これらを説明してほしい。

教育長

規模適正化の基本方針の取組状況と今回のプランとのつながり、小中のあり方としての流れについて説明をする。

令和 4 年に策定した基本方針は個々の学校を見たときに完全複式となった時機を目安として学校のあり方を保護者、地域と協議するという方針としていた。これに基づき、関係する学校、保護者、地域に情報提供をしながら今の学校での子どもたちの様子を見ていただき、しっかり社会に巣立っていける力がついているかという視点で見て、その中でどのような気づきがあるかということも教えてほしいという話をしてきた。基本方針というのは個々の学校でどうかというのが主体であった。

今回のプランは三次市のどこに住み、どこで学んでも身に着きたい学びを提供できる、三次市としての環境づくりをもう一度考えるべきだというのがこ

のプランの基盤である。この観点で見た場合、個々の学校を見るのではなく、三次市全体で必要な学びができてきているのか、一方では学校に行きにくい子や、集団の中で力を発揮しにくい子がいる。コロナ禍を経てリアルな学びの大切さも見直されている。そういった環境がもう一度見直す視点として社会の中にあるときに、個々の学校をみるのではなく、三次市全体として学びの環境をどう作っていくかを考えるべきだとプランとして示している。お願いし申し上げたいのは、皆さんが地域にいてくださり、それぞれの地域で子どもたちと携わっていただいていることが基盤にあるが、それぞれの地域だけでなく市全体でどうなのか、市全体でみたときに、ほかの市と比べて何が違うのか、国全体で進めようとしている教育のあり方と比べてどうなのかを広く見て頂きたい。学校をどう配置するかということもあるが、学校の中での学びだけでなく、地域の中で学ぶ環境を整えて頂いており、それらを三次市全体でどうつないでいくことができるのかを大所高所から議論いただきたいというのが今回の趣旨である。

事務局 子どもたちを取り巻く学びの環境を見たときに新たな基本方針を早急に策定すべき時期に来ていると考え、今年度に新しい基本方針を策定すべきと考えている。お忙しいところではあるが、月1回の開催で年内に案をまとめ、年度内で地域を回って広く説明を行い、あり方について広く共有する時間をもちたいと考えている。どうぞご協力をお願いしたい。

森川委員 適正化に向けた基本的な進め方があるが、完全複式の学校の保護者や地域との話し合いをしていると思うが、これに対してはどのような回答があつてどのような話し合いがあるのか。

事務局 これまでの経過については、資料6の4ページの取組状況にあるように、基本方針の対象となった小学校の保護者や地域、住民自治組織の役員会と話を行った。令和4年度では基本方針の背景や目的などを説明し、子どもの数は少なくなっているが、保護者の視点での学校教育の環境や学びの状況のあり方を教えてほしいということで意見交換を行った。その中で、小童小学校では喫緊の課題であると、令和5年度に保護者でアンケート等を行い、統合に向けて進めるというご返事をいただいた。その他の学校では、地域づくりと一体となつての学校教育活動を行っており、地域づくりの中での取り組み方の情報提供をいただいた。保護者の方からも地域を選んでIターンしている方もあるので、大規模な学校と比較して今住んでいるところとの学びの環境の違いなどの意見交換をさせて頂いた。丁寧な対話を行いながら、令和4年度、令和5年度はこのような流れで意見交換している。

森川委員 完全複式以外にも中規模であってもいろいろな分野の意見を聴く必要があるのかなと思う。推進委員会でも意見を聴くようにしたい。

林会長 委員の皆様一人ずつ、ご発言をお願いします。

自己紹介、それぞれのお立場から教育の振興に関わる活動を通して感じられていること、本日の内容に関するご意見・ご感想など、簡潔にコメントをお願いします。

小川副会長 資料を拝見するにあたり、小童小学校の甲奴小学校への統合については地元のことである。地元の生徒から「多人数のところで学んでみたい。」「運動会も多い生徒の中で自分を表現してみたい」との声を聴くし、保護者としてもそのような思いを実現したいと思う人は多い。一方で合併前から、地元地域から小学校が消えるのは寂しいとの声もある。大切にしているのは子ども自体がどのように育ってほしいのかといことであり、子どもが幸せに生きていく環境は親や地域が作っていくべきと考える。地元で教育について話をする中で、自分の中で1つのヒントになったのが、資料5にあるような、ICTとコミュニティスクールなどの言葉である。三次市内ではいろんな学校に行けることになっていて、十日市から甲奴に通う生徒もいる。子どもが学ぶ環境はしっかり作っていきつつも、地域と子どもの関わりというのは、コミュニティスクールがしっかりと受け入れることができるのであれば地域から子どもの声が消えて寂しくなったというのではなく、選ばれるコミュニティスクール、全地域から来ていただけるようなコミュニティスクールができればという話しをした。多角的に子どもが幸せな生活が学校を通じて送れるような、三次が好きになって、三次を戻ってこられるような子どもになるよう育ってほしい。

増田委員 三次市教育振興会理事長をしている。資料7について、策定の考え方の2(地域との関係)について、学校と地域との連携協働とあるが、地域というのは自治会組織など、地域と密着している組織との意味合いが強いと思うが、企業としてのCSRの観点から地域貢献をしていくことが最近の若い人の就職活動において必要にされており、企業を巻き込んだ実働の部分を考えてもらいたい。3月に行われたまちづくり交流会で企業としての参加はなかったし、小中のあり方としての検討会に企業としての参加はないが、企業の代表としての意見も聞いてもらえたらと思っている。

みよし学びの共創プランを見て聞いてみたいところがある。ウェルビーイングなど多様性を理解するのは難しい。また、13ページの基本施策の中で、指標と目標値の数値が気になっているが、例えば英語ができているが数学はできない場合、総じて学力を上げることが学校に求められ、できないことをできるようにするのも大切だが、できることを伸ばすような教育がウェルビーイングを考えるうえで重要ではないか。多様性を考えるときに、全体が出来ないといけないという基本的な考えでは、英語ができて数学はできない場合、この子はできないという価値観が生まれかねない。そのようなことをどのように考えているのか。多様性について、具体的な例を挙げると、私の失敗例として、母が病院で寝たきりになっていたときに、若い看護師の姓が変わりお腹が大きくなり休職して復帰するときに「子育てと仕事で大変だ」と言ってしまったが、それは多様性を理解していない証拠だと言われた。女性が子育てをするという無意識下にそのような考えがあるからそのような発言が出ると。多様性を理解するのは難しい。ウェルビーイングもそうだが、一人ひとりの幸せの感じ方は違うが、それをどう教育と合致させていくかを

聞かせて頂きたい。

水越委員 三次市で社会教育委員をしている。主には学校に行きにくい子どもや、集団になじみにくい子どもに普段関わっている。その観点から、特別支援学級の在籍児童は二人とか一人で先生と1対1で授業をしている。もし可能であれば、他の学校と一緒に特別支援学級を出張タイプでもらえる環境を作っただけだとありがたい。三次市内で自由に学校を選べるとなってから、学校に行くことができる児童がいる。小川副会長が言われたように選ばれる学校、コミュニティスクールが作れるといいと思う。

岡崎委員 広島県介護支援専門員連絡協議会三次市ブロック長をしている。日頃のフィールドは高齢者運営だが、高齢者支援の世界の中でも地域包括ケアシステムというところで、高齢者だけを考えていては高齢者を支えられないので、地域を含めての関係性を求められている。一番大事している倫理は自立支援と自己決定。どんな歳になっても、どのような状況になっても、どのような場所にいても、これを念頭において支援するのが私たちに求められている1番の倫理である。高齢者であっても子どもであっても、障害者であってもどのような状況でも同じ。その中で、コロナ禍で環境が変わってきており、どこであっても研修が受けられるようになったことはメリット。環境が変わったことにおけるメリットをどう生かしていくかが課題であり、大切なところである。子どもたちが1つの学校、1つのクラスというように多様な集団の中での個をみていくときに、個別集団の中でみることが、いいことを見る機会となり、機会が増えている。

私たちが見る高齢者の姿と、地域で見せる姿とは異なっている。子どもが私たちのところに来て、色々なことをするとき、私たちに見せる姿と、地域で見せる姿は別。いろいろな場面での子どもの学びや発達を地域の私たちが理解したうえでの子どもとの接点であると思う。策定の中でもそれを大事にして指針ができればいいと思う。

今井委員 民生委員をやっている。今年度になってコミュニティスクールと、十日市小中学校の建て替え、そしてこの委員会に出させてもらっている。共通するのはどれも同じで、すべての子どもが安心して、夢を持って、三次でよかったと思える子どもたちのために、というのが3つの委員会で共通するところ。酒屋のコミュニティで事務局をしているが、子どもたちと接して、子どもたちが大人に何を求めているのか。どういうところで学びたいのか。それを私がつなげていけたらと思っている。毎月このような会議でつなげていきたい。

池上委員 三次市住民自治組織連合会の会長をしている。学校では地域を育む子どもを育成するとしてコミュニティスクールで、地域住民が参画できる場を設定して頂いたことはありがたいことだと思っている。今から小中が統廃合する中で、地域と聞くと、旧市町村単位が浮かび、今後、うちの地域がなくなるという話もでてくると思う。そこら辺をコミュニティの範囲を超えて対応していくのが住民自治組織であると思っている。そのためには、まちづくり交通課

が窓口になるが、まちづくり交通課と教育委員会が密に連携をして頂き、統廃合だけでなく地域がうまく回るようお願いしたい。地域住民としては、学校がなくなるのは嫌だが、最終的には子どもの将来が一番だと思っている。

三上委員

伊賀和志神楽団の団長をしている。作木で神楽をしている。団体の活動として、中学校に48年間神楽指導をしている。自分のときには同級生が30人くらいいたが、今は全体で26人。中学2年生が神楽をすることになっているが、人数が少ないので、2年と3年が共同で何とか続いている状態である。令和9年度には全校14人まで減るのが確定しているので、存続をすることが難しくなっている。統合になれば、また今後は活動が難しくなると感じている。中学校も部活の関係で生徒が外に出ることも仕方がないが、1人減るだけで大きなダメージになる。こればかりは仕方がないが継続的にできる限り続けていきたいと考えていきたい。田舎は特に過疎化、少子化が課題になっている。ぜひ作木に来たいという人がいれば願います。

森川委員

先ほど述べたので、次にお願います。

福田委員

三次市保育所保護者会連合会で会長をしている。三次市内の保育所から各保育所の保護者会の様々な役員の人が集まり、今年は和田保育所が会長の持ち回りで、声がけをいただいた。

個人としては生まれが島根県の奥出雲町仁多の出身。家ではピオネットを引いておらず、市の情報があまり入ってこない。広報などを興味をもって見れば情報が入ってくるが、20代、30代世代はテレビ離れもあり市のいいところが伝わりにくいと思っている。たまにニュースで地元島根のニュースをみると興味を持つ。三次のことも興味はあるがそれを知る機会がない。大学や専門学校は、三次、庄原、安芸高田は少ないので、高校卒業後は進学する子は市外へ出ていく子が多い。進学先の学校で就職を探し、就職するため、若年層が減る要因ではないかと思っている。自分のように地元ニュースが気になり、三次市のことが気になる人はかなり全国にいる。いろいろなタイミングでU・Iターンする若者は増えていくのではないか。三次市の保育所の会合でも、若者の人口は減っている。最近では安芸高田市元市長の石丸氏のようにユーチューブやエックスなど若者がどのようなところから情報を得るのかをもっと有効に活用してもらえると周りの地域から三次市へ引っ張ってくることもできるのではないか。この会で勉強になって役に立てることもあるのではないかと思う。

高田委員

青陵高等学校の校長をしている。県立学校の立場で話をしたい。市内には県立高校は3校ある。明日から、学校が始まる。午前中は研修会、職員会議がある。2学期を迎えるにあたり、職員に話すのが、持続可能な三次青陵高校とは何かという話である。県立学校は廃校、募集停止など県立学校も生徒募集に苦慮している。ただ、生徒数は変わらない。生徒を集めるとするならば、地域で言えば隣の学校からとってくる。あるいは県外からとってくる。街であれば公立は私学からとってくる。もうそれしかない。青陵高校はどうする

か、そして青陵高校の三次市での役割は何なのかというのを先生方に話をした。具体的な生徒数は平成元年頃、高校生は全国 200 万人くらいで進学率は 40% 切るくらい。昨年度であれば高校生は 220 万人、進学率は 60% を切るくらい。本校にも求人が来るが上場企業も高校卒業生を集めるのに苦労している。昔は中学生が金の卵と言われていたが、今は高校生が金の卵と言われている。学校だけでなく日本が、地域がどうなるのか、三次市がどうなるのか。学校だけでなく全てが関わってくる。昨年度新生児が 80 万人に減っている。15 年後を考えるとぞっとする。来年度、再来年度を考えるが、三次市で 470 人、小学校で 370 人、100 人減る。庄原市は昨年の新生児が 80 人で庄原格致高校の 1 学年にも足りない。数年など長いスパンで考えないとまずい。先生方には 10 年後 15 年後で考えて、青陵高校が残っていくためにはどうすればいいかを考えないといけないという話をしている。これを踏まえて三次市全体の小中学校の教育がどうなるのかを広い目で見えていかないと、子どもたちに対して、あとからこうすれば良かったということになる。

住岡田委員

みらさか小学校、三良坂中学校の校長をしている。みらさか学園は、小中一貫校として開校して 10 年目になる。コミュニティスクールが実働して 2 年目。資料 7 の視点②について、みらさか学園では小中の 9 年間で地域と一体となって子どもたちを育てている。朝の見守り、環境整備、学習支援など、多くの人に関わってもらっている。夏休みにコミュニティスクールの委員が来校され、本校の先生と 1 時間半くらい座談会をしたところ、若い先生から、子どもたちばかりがしてもらえばかりではいけないと話があり、意見として、お年寄りへのスマホ教室を子どもがしたり、盛り上がっている、みらさかコーヒーをさらに盛り上げるためにカフェクラブをつくったり、地域で眠っている、使われていないものに光を当てて家庭科の教育に関連させるなどの意見が出た。三良坂中学校も生徒数が少なくなってきたおり、コミュニティスクールで魅力を高め、選ばれる学園にしたい。

次川委員

吉舎小学校校長、小学校長会を代表として参加をしている。視点①について、常々考えることがある。不登校まで行かなくても教室に入れれないのは、確執的な指導が嫌なのか集団に入りにくいのか色々な理由があると思う。学校とは何のためにあるのか、勉強が一番であるならオンラインでいいのではと考えることもあるが、一人ひとりの存在を実感できるのは、相手がいて初めて実感できる。いろいろな子がいることを知ることが大事だと思っていて、それが学校であり、最初の社会が学校だと思う。お互いの存在を感じる学校づくりを三次市全体でできればいいと思う。

②の地域との関係では、吉舎では学校が統廃合でなくなっても、うちは元気だという地域がある。地域が自立して自分たちでできると、色々な活動を行っている地域もある。地域も自立して学校も自立してお互いが知り合えるのがいいと思っている。

岩崎委員

PTA 聯合会の理事をしている。先ほどあった適正化の検討を始める時期に来たということで、自分の子どもの通っているのが青河小学校である。事務局

が1月に話したことと重なるが、小規模学校の保護者として、共通して思うことでもあるが、小規模でのメリット・デメリットがある。子どもたち一人ひとりが自信をもって発表できる。1年生の時では人前で発表できない子が青河小学校では絶対に1人で発表できるようになる。子どもが3人いるが、上は18歳、三次高校2年生、小学校2年生の子育てをしているが、地域と一体となって小学校で子どもを育てたのがよかったと思う。小規模校だから、進学や子育てについて心配する保護者もいるが、青河の保護者はこの環境で子育てをしたいと思っている。PTAで話をしているのは、青河の良さをもっと周りに周知し、このような学校を求めている人が、他の地域より来てもらいたいと思っている。三次全体で子どもたちの学ぶ環境を良くするということであるが、小規模校の良さを伝えるのが自分の役割であると思っている。

藤川委員

PTA 聯合会の会長をしている。学校のあり方ということで人が減ると統合も仕方ないと思う。資料6をみると、段階もあると思うが、当然、お金のこともあるので、行政としては先の先を見て統合にもって行ってほしいと考えている。デジタル的なところは心配していないが、逆にアナログ的なところ、今ある地域とのコミュニティについて、いいところをどう残していくのかは親として心配な部分である。

やがて統合して学校数が減っていく中で、一番は現場の先生に子どもたちは見て頂くので先生方の環境を整えて頂きたい。先生も定時で帰れるような環境にしてもらいたい。そうすると子どもたちと良い状態で接してもらえるかなと思う。

安田委員

公募委員として参加する。君田小のPTA会長をしている。君田小は完全複式で統廃合の対象となっている。教育委員会より説明を受けて、全保護者からアンケートを取ったが56%が統合したいとの回答があった。中学校区では、75%の保護者が閉校を望むとの回答だった。小規模校のメリット、デメリットはあるが、コミュニティスクールの運営について、君田地区は高齢化が進み、運営が難しいとの意見があった。教育格差については人数にかなう教育現場はないという声などもあり、これからどうなるかわからない。今から自治区と話していく段階ではあるが、保護者としてはこのような意見が多いということで、このような意見もあるということ委員会ですっかりと発信したい。

浦田委員

公募委員として参加する。現在、上田町に住んでいる。上田小学校は20年前に廃校になり、子どもたちは川西小学校に通っている。自治振興区をまたいでの統合ではなかった。上田と地域と他4町を一体化させていくのが難しかったが、今は5町が一体となり川西小を盛り上げている。今は川西小学校も児童数が減り、一部複式学級となっている。U・Iターンがいて、Uターンは自分の育った地域で子育てをしたいと帰ってきている。この地域で学校に通って、自分が育った地域を好きになったとのプロセスがあり、これが大事だと思う。先日、小田切先生(明治大学)の講演があり、小学校期まではテリト

リーがあり、それがどんな所か探索していく発達の時期であり、その時期にテリトリー内に学ぶ場があることに意味がある。そこで過疎に適応するスペックを身につける必要がある。三次市全体でそうだが、そのスペックを身につける上で、自分が今住んでいるところを過疎は過疎なりにどのようににぎやかな過疎（にぎや過疎）にしていくかを子どもなりに大人と一緒に考えるのが大事だと考える。それが小学校期までで、中学校期は違う。ということは、小学校と中学校を一体的に考えるのではなく、発達の段階に応じて、適正化への考え方が違うのかと思う。大規模、小規模どちらもメリットがある。その子に応じて学校を選べて、年度によって行き来ができるのもいいのかなと思う。自分たち自身が育ってきた時代と変わってきており、私たちが時代の変化に適合し、どのようなアイデアややり方をすれば今の学校規模でより豊かな教育ができるのか、新たなやり方を探ることも必要ではないかと考える。アンケートでクラスが複数あった方がいいという回答は、自分たちが複数のクラスで学んできたという体験からきている。体験から導き出されるのであれば、複式の良さを聴いたり学んだりして両方のメリットを学んだ上で議論をすべきだと思う。同じベースに立っていないのは課題があるのではないかと思う。

林会長

色々な思いをもってこの場に臨んでおられることが分かった。三次市の出身ではないが、当事者として、整理をしながら意見をくみ取っていききたい。自分の思いと共鳴すると思ったものを取り上げるが、面白いと思ったのは、地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりがあるといわれる。地域とともにある学校づくりは学校教育の立場から出てくるコミュニティスクールの中でという話になる。学校を核とした地域づくりというのは社会教育の視点でよく語られる。両方が重なることでよりよくなる。学校だけの視点、地域だけの視点ではなく三次市全体の中で考えていくことが大切である。

学校教育も社会教育も教育委員会の所管で周辺領域と重なっている。教育大綱や市長部局が、市のあり方と結び合い全体で考えていくことが多く出てきた。子どもという存在をどう捉えるか、お客様ではなく子どもが主人公となっていくという意見が出てきた。子どもの視点として、子どもなりの意見を捉まえ、受け止めることが必要である。短い期間ではあるが努力が必要である。

人のためと書いて「偽り（いつわり）」と読む。人の夢と書いて「儂い（はかない）」と読むが、夢を語らないのはいけない。夢は必要で、夢を叶えるために、目標を定めて組織立っていくことが必要である。「子どものために」、「人のために」という、「ために」ではなく「ともに」、「子どものために子どもとともに」というのが大事。人と共にと書くと「供える（そなえる）」となる。供えるを神に供えるときとすると神は人知を超えた存在であり、そこにともにと考えると子どもも大人も全員がともにとなり、それが大事だと思う。

増田委員が企業という視点の意見であったが、地域にいる人は住んでいる人

だけでなく、遠くから来て働いている人も含まれる。そのような人たちも一緒になってやることが大事である。東広島の吉川小では、マイクロンという企業が校区内にあり、企業が学校運営協議会に入っている。最先端の学びを子どもに提供するなど、企業も学びに関わっている。今日の話で思い出したので付け加える。

各委員が、それぞれの活動分野の中で三次市の教育に関わっていただいていること、これからの三次市の教育・ひとづくり・地域づくりに対する思いを伺うことができた。

様々なご意見をいただいたところであるが、事務局から説明を受けた「三次市立小中学校あり方に関する基本方針策定指針」については、その内容に沿って、今後本委員会を開催し、基本方針素案の策定に向けた協議を行っていくことでよろしいか。

委員一同  
林会長

～異議なし～

基本方針策定指針に沿って、委員会を進めていくこととする。

なお、事務局においては、先ほど各委員から出された意見について、基本方針策定の過程で考慮していく必要な事項については、反映の検討をお願いする。

委員の皆様には、議事の円滑な進行にご協力いただき、感謝申し上げます。以上で、予定していた議事はすべて終了した。

それでは、進行を事務局にお返しする。

事務局

次第「6 その他」の事項に進めさせていただきます。

事務局から、委員の皆様へ、今後、連携や協力をいただきたいことについて説明する。その内容は、基本方針を策定していく取組過程の中で、各所属団体に説明させていただく会議等の「機会」の設定についてである。

基本方針素案の策定後、教育委員会から各地域や保護者の皆様等への説明と意見交換を行っていくことを予定している。

私どもとしては、より多くの方に、基本方針素案の内容を説明し、意見をいただく機会をつくっていきたいと考える。委員の皆様におかれては、所属しておられる団体等の中で、役員会や地区代表者の方が集まれる会議において、そうした機会を設けることができますよう、調整の労をとっていただきたい。具体的には、時期も含め、各委員と個別に連携させていただきたい。ご理解とご協力をお願いする。

続いて、次回の開催日程の連絡である。

第2回委員会は9月27日（金）14時から、三次市役所において開催する。

以上をもって、「第1回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を終了する。